

# かけ橋

まだ見ぬ君へ…

▼牛乳パックのポリエチレンフィルムをすべて熱エネルギーに変える廃ポリ焼却炉熱回収設備。国内唯一の設備です。



※スイスのジュネーブに本部があり、工業製品などの規格を制定している

「ISO14001」は、国際標準化機構（ISO）の環境管理・監査についての国際規格で、丸富製紙の認証取得は、国内の製紙業界初の快挙。環境に配慮した製造技術のもと、牛乳パックと上質系古紙を有効利用し、すぐれた再生紙の家庭紙を生産している企業姿勢が認められました。

## 環境ISOを取得 丸富製紙

富士市は全国有数の製紙のまち。しかし、残念ながら昭和四十年代は、公害のまちとして全国に知られていました。その後、市は、公害対策に力を注ぎ、各企業も環境への影響を配慮しながら事業に取り組み、現在までの発展を遂げてきました。このような背景のもと、天間に本社を構える家庭紙メーカーの丸富製紙が、このほど「環境ISO」とも呼ばれる国際規格「ISO14001」の認証を取得しました。

同社は、「環境への影響を配慮した製造技術の確立」「資源とエネルギーの有効利用」「工場廃棄物の100%再資源化」などを基本方針に掲げ、再生紙の原料として早くから牛乳パックに着目しました。そして、各種団体や小・中学校などの協力のもと、リサイクルシステムを確立する一方、パックの内側に使われているポリエチレンの焼却熱をボイラーに使うなどの取り組みを行ってきました。佐野廣彦社長は、「再生紙には、森林資源の保護や省エネルギー（パーシパルプの三分の一）、ごみの減量などのメリットがあります。トイレロールやティッシュペーパーなどは、二度と使わない紙です。再生紙の利用拡大は、環境への大きな配慮でもあります。品質向上などの企業努力はもちろんだこと、消費者の皆さんの環境に対する意識の高まりにも期待したいですね。そのためにも、工場の見学は大歓迎です。皆さんに私たちの工場を見てもらいたいと思います」と話してくれました。



▲PS焼却灰は100%有効利用。すべて売却し、溶融金属保温材になります。



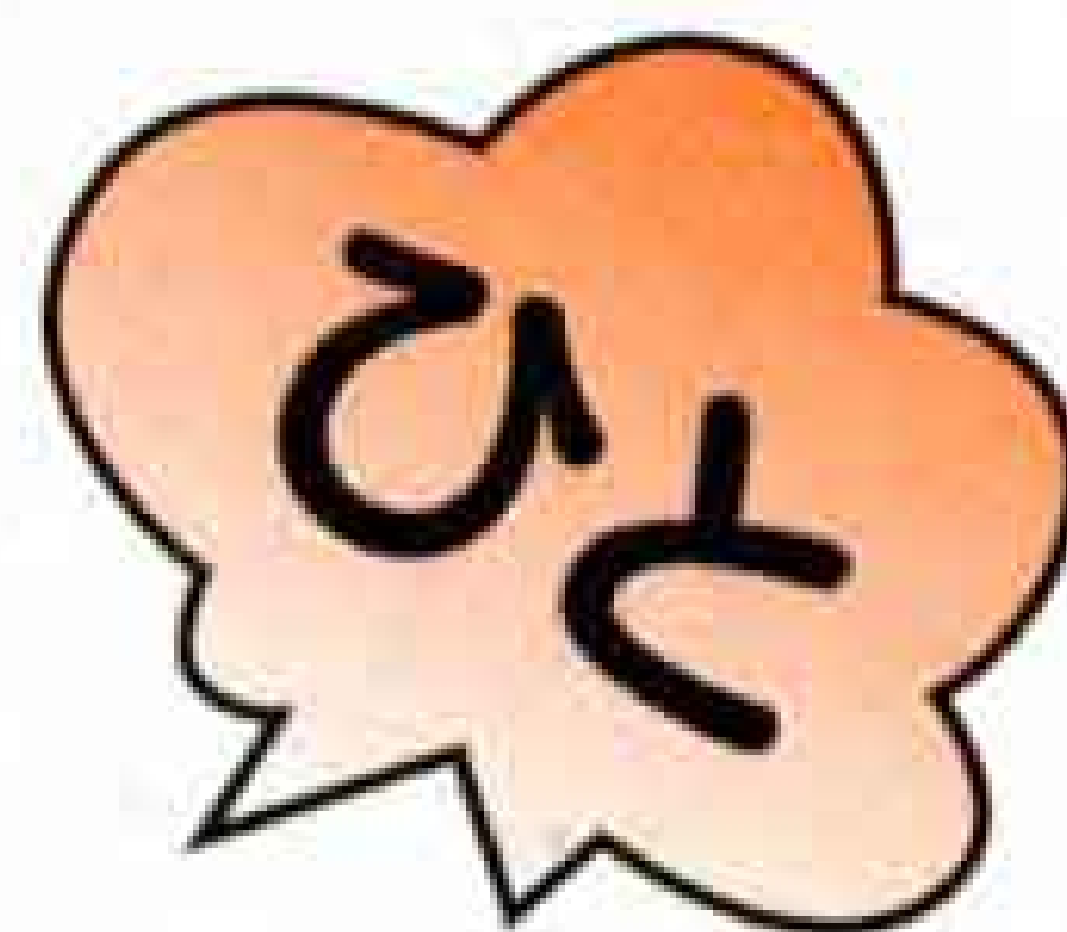
「かなり多くの人が、富士市のミカン（青島ミカン）は酸っぱい、と感じているようです。私は、何とかそのイメージをぬぐい

また、その後に行われた県の品評会では、第三席を受賞。佐野さんは、全国に誇るミカン生産県の品評会において、三ヶ日を初めとする県内の他地域を相手に高い評価を得たことを喜びます。

カンづくりの力を注ぐ富士市内のミカン生産農家が出品して行われた「第四回貯蔵ミカン品評会」（市農協主催）で、金賞第一席を受賞した佐野さんは、ミカン農家の四代目。大学の農学部で農業知識と技術を習得して帰郷、ミカンのほか、お茶やカキなども栽培している専業農家の後継者に……。三年前にも金賞第一席を受賞し今回二度目、高品質の貯蔵ミカンを生産する第一人者となりました。

「マルチ栽培」とは、簡単に言うと、土の上に白い特殊シートをかぶせる栽培方法のこと。光の反射率が高いため、ミカン全体に日光が当たり、病害虫の被害も減少します。また、空気や水蒸気は通しても水を通さないことで、ミカンの水分を調節することができるとのこと。この地域の土は保水性がよく、糖度が落ちてしまいます。

青島ミカンは、もともと十分糖度が高いのですが、酸度も高いため、あまり評価されませんでした。しかし、栽培方法によっては、甘くておいしいミカンをつくることできます。これからは、もっと作業効率を高める努力をして、『打倒、三ヶ日ミカン』を目標に頑張っていきたいですね。力強く語る佐野さんのひとみの奥に、ミカンへの深い愛情が感じられました。



富士市貯蔵ミカン品評会で金賞第1席、  
県の品評会で第3席を受賞した

## 佐野宏一郎さん (岩本)

